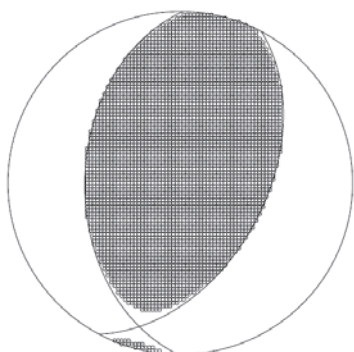


7月18日22時04分 ニューギニア付近の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

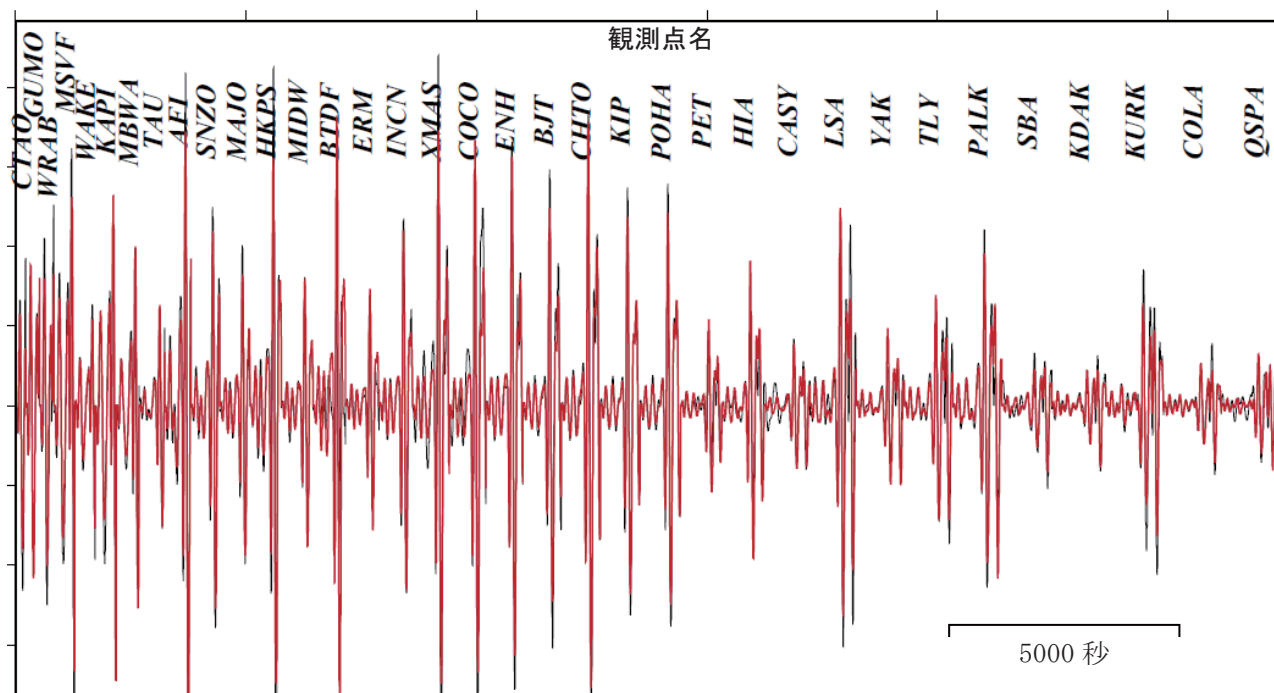
W-phase による解



2010年7月18日22時04分(日本時間)にパプアニューギニアのニューギニア付近で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。震源位置はUSGSの震源位置(S6.000, E150.436, 深さ42km)を用いた。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは6.9であった。

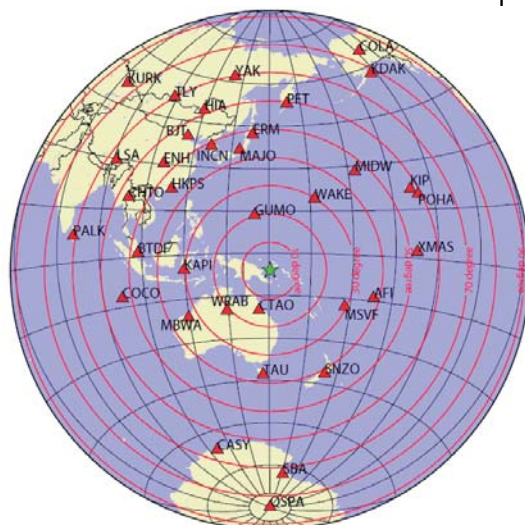
W-phaseの解析では、震央距離 $10^{\circ} \sim 90^{\circ}$ までの35観測点の上下動成分を用い、100~300秒のフィルターを使用した。

Mw6.9(6.90)



— 観測波形
— 理論波形
(解析に用いたしたデータ範囲*のみ表示)

*解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点の位置(▲)と地震の震央位置(★)

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

IRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用しました。記して感謝します。